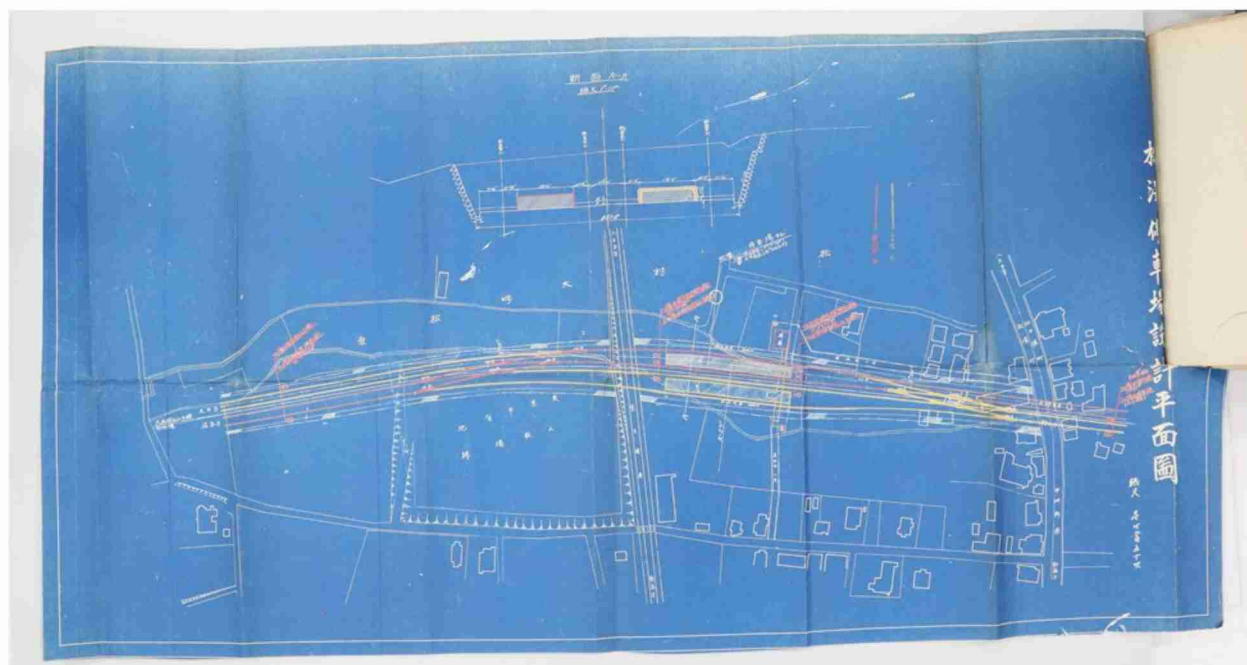


幻の鉄道—東京山手急行電鉄



「松沢停車場設計平面図」 『鉄道・軌道・索道・自動車道路 冊の42』

実際に造られることのなかった鉄道計画は数多く存在しますが、その中でもとりわけよく知られている事例が大正後期から昭和の初めにかけて構想された東京山手急行電鉄です。山手線の外側を囲むようなルートで電車を走らせ、都心から郊外に向かう各鉄道路線の間を結ぶ計画でした。

実現には至りませんでした。現在その痕跡を京王井の頭線明大前駅周辺で確認することができます。昭和初期に同駅建設のため作成した平面図を見ると、井の頭線と東京山手急行の各上下線が並列して停車できるように設計されていたことがわかります。明大前駅周辺では、駅の建設にあたり4本分の線路を敷設するため確保したスペースが、いまもなお一部残されています。